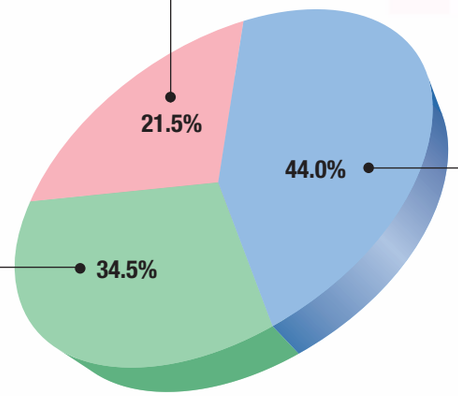
FANCL中間事業報告書2001.taj 01.12.18 11:21 AM ページ 1

contents

ファンケルグループの事業内容 ... 1
連結決算ハイライト 1
株主のみなさまへ 2
化粧品関連事業 4
健康食品関連事業 5
その他事業 6
トピックス 8
連結決算の状況 9
単独決算の状況 12
株式の状況／役員 13

ファンケルグループの事業内容



その他事業

- 発芽玄米事業
- 青汁事業
- 快適生活事業
- ニューシニアビジネス
- NGC通販事業

化粧品関連事業

- ファンケル化粧品
  ［肌アレルギーを起こすおそれのある成分を含まない化粧品］
- アテニア化粧品
  ［高品質かつ低価格の化粧品］

健康食品関連事業

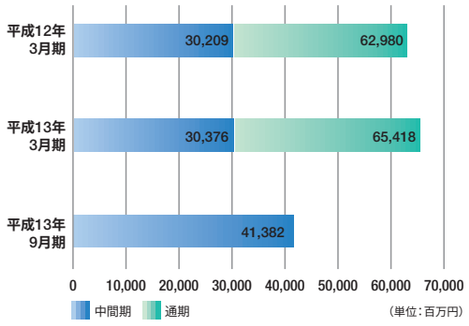
- 健康補助食品
  ［高品質・国際標準価格を実現した健康食品］
- 美容補助食品
  ［体の中から美しさに働きかける健康食品］

連結決算ハイライト

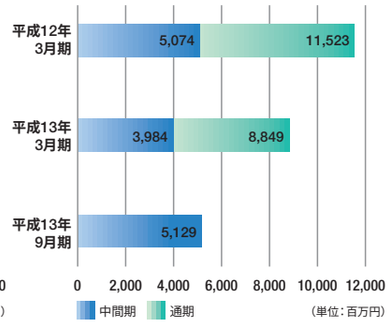
（単位：百万円）

	当中間期	対前中間期
売上高	41,382	+36.2%
化粧品関連事業	18,200	+5.1%
健康食品関連事業	14,274	+27.7%
その他事業	8,907	+372.3%
経常利益	5,129	+28.7%
中間純利益	2,749	+25.8%
1株当たり中間純利益(円)	141.03	+25.8%
総資産	76,076	+10.7%
株主資本	61,731	+8.2%

売上高



経常利益



FANCL中間事業報告書2001.taj 01.12.18 11:21 AM ページ 3

株主のみなさまへ

■ 企業理念

「世の中の不安や不満などの“ 不 ”を解消すること」

肌トラブルへの不安を解消した無添加化粧品。
健康食品の価格に対する不満を解消した高品質、国際標準価格の健康食品。
ファンケルはこれからも世の中の“ 不 ”の解消に挑戦します。
お客さまの笑顔、それがファンケルの原動力です。

ファンケルグループ代表　**池森 賢二**

■ 今中間期の業績について

株主のみなさまには日頃から格別のご支援ならびにご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

当中間期（平成13年4月～平成13年9月）の連結決算についてファンケルグループ代表池森賢二より、ご報告申し上げます。

当中間期の売上高は413億円（前年同期比36.2%増）、経常利益は51億円（前年同期比28.7%増）、中間純利益は27億円（前年同期比25.8%増）と増収増益になりました。各事業別にみましても化粧品、健康食品、その他事業ともに前年同期を上回り、売上を伸ばすことができました。新規事業の発芽玄米事業や青汁事業につきましては、当初の計画を達成できず下期へ課題を残しました。

化粧品関連事業は、業界が久しぶりに出荷額ベースでプラスに転ずる中、売上高は182億円（前年同期比5.1%増）となりました。情報誌「エスポワール」の発行回数を年8回から年12回に増やし、お客さまとのコミュニケーションを密にしたこと、さらにマイルドクレンジングオイルの増量キャンペーンなどの販売施策を実施したことが功を奏しました。また、コンビニエンスストア“ ローソン ”での販売および香港のファンケルハウスでの販売も好調でした。課題である既存店の活性化につきましては、モデル店6店舗で実験を始め、検証を重ねております。

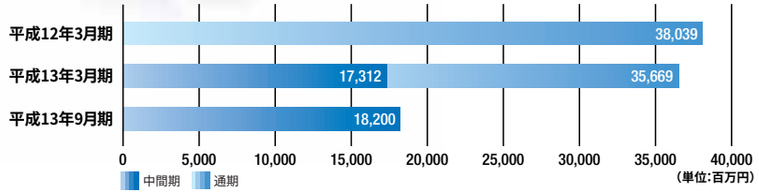
健康食品関連事業は、市場の拡大に伴い、売上高は142億円（前年同期比27.7%増）と引き続き順調に推移しております。製品面ではパーフェクトスリムドリンクなどのダイエット関連製品、健康サポートシリーズなどのオリジナル製品がお客様からご好評をいただいております。また当社は、本年4月に施行された保健機能食品制度にいち早く対応し、「マルチビタミン」に栄養機能を表示するなどトップブランドとしての責務を果たしております。

その他事業は、新たにグループ会社として加わった株式会社エヌ・ジー・シーの売上が大きく寄与し、売上高は89億円（前年同期比372.3%増）と大幅に増加いたしました。発芽玄米事業では、本年4月に従来品のウェットタイプに大幅な改良を加えだ“ さらさらタイプ ”を新発売いたしました。それに伴い、広告宣伝を積極的に展開し新規顧客の獲得を図るとともに取扱店の拡大につとめ、市場カバー率を高めることができました。青汁事業は、コンビニエンスストアやスーパーでの販売に加え、本年6月より通信販売も開始し、販売チャネルの多様化を図りました。快適肌着は、引き続き順調に売上高を伸ばしております。株式会社エヌ・ジー・シーが展開しております通販事業は、ガーデニング用品や冷風扇の販売が好調に推移し、顧客数も増加しました。

以上、株主のみなさまにおかれましては、当グループの経営姿勢をご理解いただき、倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

化粧品関連事業

売上高



「洗顔パウダー」を リニューアル

平成13年4月に「洗顔パウダー」を改良新発売しました。無添加のやさしさで素肌をいたわりながらきれいに落とす「洗顔パウダー」。ツルツル、スベスベの洗い上がりはそのままに、さらっと溶けてダマになりにくく、フワフワな泡立ちで、より気持ちのよい洗顔が可能となりました。

新感覚パック「ヨーグルエステ」 シリーズを新発売

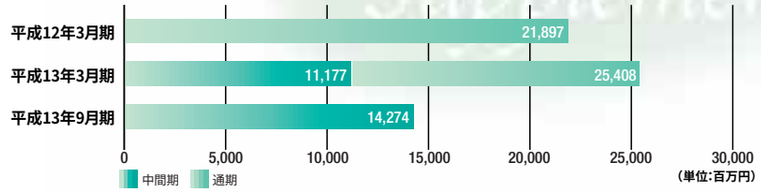
平成13年6月に「ヨーグルエステ」シリーズを新発売しました。肌を浄化し、肌リズムを整える「リズムアップパック」、保湿効果の高い「ベジタブルモイストパック」、肌を活性化する「ビタライズアップパック」の3種類。気になる肌の悩みにあわせて単品でも、組み合わせて使っても効果的な新感覚のパックです。

Cosmetic Products

健康食品関連事業

Nutritional Supplements

売上高



栄養機能食品 「マルチミネラル」新発売

平成13年7月、現代人に必要とされる10種類のミネラル(カルシウム、マグネシウム、鉄、亜鉛、セレン、クロム、マンガン、銅、ヨウ素、モリブデン)をバランス良く摂ることができる栄養機能食品「マルチミネラル」の販売を開始しました。体への吸収がよい原料を使用したほか、毎日続けていただける低価格を実現しました。

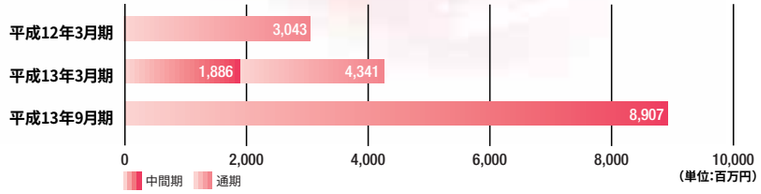
「パーフェクトスリム ドリンク」 新発売

平成13年5月、人気のダイエットシリーズの新しい商品として「パーフェクトスリム ドリンク」を発売しました。1日1本で、ダイエットに役立つ水溶性ガルシニア1020mgを補給することができます。オレンジ&グレープフルーツ風味で、時間や場所を選ばず手軽においしく補給できます。

FANCL中間事業報告書2001.taj 01.12.18 11:21 AM ページ 7

その他事業

売上高



発芽玄米事業

平成13年4月、従来品に大幅な改良を加えだ さらさらタイプ の「ファンケル発芽米」を新発売しました。温めるだけの「発芽米<おかゆ>」や「発芽米<ごはん>」も発売し、食べ方、おいしさを色々選んでいただけるようになりました。また、元首相細川護熙氏のCF起用など積極的な広告宣伝活動を展開しました。

青汁事業

コンビニエンスストアを中心とした卸販売に加え、平成13年6月より通信販売を開始しました。飲みにくいといわれる青汁のイメージを一新し、ケールの栄養価や新鮮な色はそのままに、苦みや青臭さを独自の製法で軽減したファンケル青汁。1杯分100ccで100円というお求めやすい価格で手軽に野菜不足が補えます。

快適生活事業

「ファンケル快適肌着」の販売はファンケル化粧品のお客様を中心に堅調に推移いたしました。「快適肌着」のこだわりは、デリケートな肌の方にまで安心して着ていただけるやさしさ、着ごこちのよさです。つるつるスベスベの肌を保つシルクの美肌成分「セリシン」のコーティングで、高レベルなやさしさを追求しています。

ニューシニアビジネス

高齢化が進む日本。当グループでは、元気なお年寄りが生き生きと生活できるように高齢者をサポートするビジネスの展開を考えています。そのひとつとして、元気な中高年を応援する雑誌「毎日が発見」を発行しています。定年後の生き方探しから、ファッション、旅行、グルメ、資産運用まで、ご夫婦で楽しめる企画が満載です。

Others

FANCL中間事業報告書2001.taj 01.12.18 11:21 AM ページ 9

トピックス

三越南京西路店

三越信義店

台湾にファンケルハウスをオープン

平成13年6月、ファンケルは三井物産株式会社および台湾三井股分有限公司と合弁で化粧品と健康食品の小売事業を展開する合弁会社「台湾芳珂股分有限公司」を設立しました。6月に「三越南京西路店」と「三越信義店」を、9月には「三越新竹店」にファンケルハウスを出店し、今後もさらに店舗数を拡大するなど積極的な事業展開を進め、台湾市場でのファンケル製品の浸透を図っていきます。

「エヌ・ジー・シー」ファンケルグループ入り

健康器具や家庭用雑貨などを取扱う総合通信販売会社、株式会社エヌ・ジー・シーが、新たに経営成績上連結対象の子会社となりました。ファンケルの増資引受により資本金も160百万円となり、経営基盤はさらに強化され、インターネット商取引の拡販など積極的な事業を展開しています。

「粉末青汁」の販売開始

平成13年9月、ファンケルは好評の冷凍タイプに引き続き、いつでも手軽に飲め、低価格な粉末タイプの「ケール」と「大麦若葉」の青汁販売を開始しました。

連結決算の状況（中間連結財務諸表等規則に基づいて記載しております。）

中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	前期（平成13年3月31日現在）金額	当中間期（平成13年9月30日現在）金額
（資産の部）		
流動資産	41,701	**42,856**
現金及び預金	16,224	**16,050**
受取手形及び売掛金	7,936	**8,464**
有価証券	11,723	**11,728**
たな卸資産	4,758	**5,137**
その他流動資産	1,057	**1,475**
固定資産	33,780	**33,219**
有形固定資産	23,056	**23,042**
建物及び構築物	9,244	**9,159**
その他有形固定資産	13,812	**13,883**
無形固定資産	3,048	**2,613**
投資その他の資産	7,674	**7,562**
投資有価証券	1,398	**1,417**
長期貸付金	1,584	**1,183**
保証金	2,397	**2,411**
その他投資その他の資産	2,293	**2,549**
資産合計	75,481	**76,076**
（負債の部）		
流動負債	13,244	**12,132**
支払手形及び買掛金	3,859	**3,543**
短期借入金	1,170	**920**
その他流動負債	8,215	**7,668**
固定負債	2,754	**2,211**
長期借入金	1,092	**640**
その他固定負債	1,661	**1,571**
負債合計	15,999	**14,344**
（資本の部）		
資本金	10,795	**10,795**
資本準備金	11,706	**11,706**
連結剰余金	36,977	**39,242**
その他有価証券評価差額金	5	**△ 11**
自己株式	△ 2	**△ 0**
資本合計	59,482	**61,731**
負債・資本合計	75,481	**76,076**

FANCL中間事業報告書2001.taj 01.12.18 11:21 AM ページ 11

連結決算の状況（中間連結財務諸表等規則に基づいて記載しております。）

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

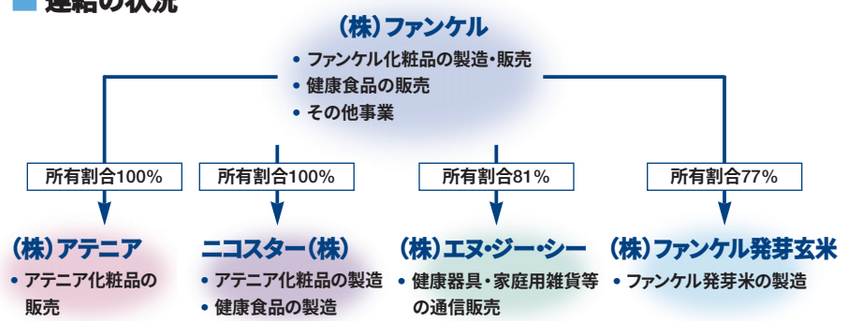
科目	前中間期（平成12年4月1日から平成12年9月30日まで）金額	当中間期（平成13年4月1日から平成13年9月30日まで）金額	伸び率 %
売上高	30,376	41,382	36.2
売上原価	8,216	13,594	
売上総利益	22,159	27,788	
広告宣伝費	3,991	5,813	
販売促進費	2,894	3,709	
荷造運賃	1,524	1,804	
通信費	1,399	1,247	
手数料	1,950	2,528	
給与手当	2,415	2,872	
減価償却費	691	670	
その他販売費及び一般管理費	3,583	4,241	
販売費及び一般管理費	18,451	22,887	24.0
営業利益	3,708	4,901	32.2
営業外収益	552	443	
営業外費用	275	215	
経常利益	3,984	5,129	28.7
特別利益	66	7	
特別損失	89	352	
税金等調整前中間純利益	3,962	4,784	20.7
法人税、住民税及び事業税	1,747	2,295	
法人税等調整額	30	△ 259	
中間純利益	2,184	2,749	25.8

POINT

新たに経営成績上連結の対象となった（株）エヌ・ジー・シーおよび（株）ファンケル発芽玄米を除いた実質ベースでは売上高36,130百万円、営業利益4,696百万円、経常利益4,938百万円となりました。

子会社（株）毎日が発見ドットコムの清算および（株）マイカル向け債権の貸倒損失計上により増加しました。

連結の状況



中間連結剰余金計算書

（単位：百万円）

科目	前中間期（平成12年4月1日から平成12年9月30日まで）	当中間期（平成13年4月1日から平成13年9月30日まで）
連結剰余金期首残高	32,653	36,977
連結剰余金減少高		
連結子会社増加による剰余金減少高	—	3
連結子会社の第三者割当増資に伴う持分変動による減額	—	237
配当金	299	243
合計	299	483
中間純利益	2,184	2,749
連結剰余金中間期末残高	34,538	39,242

中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	前中間期（平成12年4月1日から平成12年9月30日まで）	当中間期（平成13年4月1日から平成13年9月30日まで）
Ⅰ営業活動によるキャッシュ・フロー	3,548	2,038
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,609	△ 1,297
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 740	△ 927
Ⅳ現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 8
Ⅴ現金及び現金同等物の増加額	197	△ 194
Ⅵ現金及び現金同等物期首残高	28,109	27,947
Ⅶ新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	25
Ⅷ現金及び現金同等物中間期末残高	28,306	27,779

FANCL中間事業報告書2001.taj 01.12.18 11:21 AM ページ 13

単独決算の状況（中間財務諸表等規則に基づいて記載しております。）

■ 中間貸借対照表

（単位：百万円）

科目	前期（平成13年3月31日現在）金額	当中間期（平成13年9月30日現在）金額
（資産の部）		
流動資産	33,418	34,435
固定資産	30,276	30,215
有形固定資産	20,148	18,686
無形固定資産	1,541	1,367
投資その他の資産	8,586	10,161
資産合計	63,695	64,651
（負債の部）		
流動負債	8,789	8,209
固定負債	2,417	1,872
負債合計	11,206	10,082
（資本の部）		
資本金	10,795	10,795
資本準備金	11,706	11,706
利益準備金	243	267
その他の剰余金	29,738	31,812
その他有価証券評価差額金	5	△ 11
自己株式	ー	△ 0
資本合計	52,488	54,569
負債・資本合計	63,695	64,651

■ 中間損益計算書

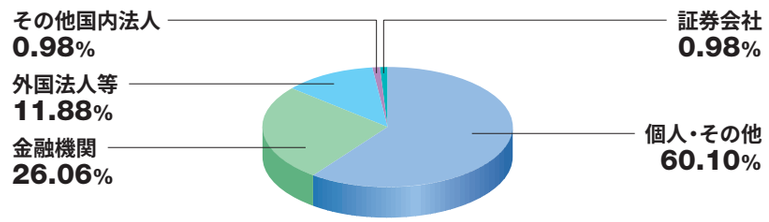
（単位：百万円）

科目	前中間期（平成12年4月1日から平成12年9月30日まで）金額	当中間期（平成13年4月1日から平成13年9月30日まで）金額	伸び率
			%
売上高	27,126	33,038	21.8
売上原価	7,609	10,694	
売上総利益	19,517	22,344	
販売費及び一般管理費	16,341	18,466	13.0
営業利益	3,176	3,877	22.1
営業外収益	737	583	
営業外費用	253	187	
経常利益	3,660	4,273	16.8
特別利益	61	ー	
特別損失	76	338	
税引前中間純利益	3,644	3,935	8.0
法人税、住民税及び事業税	1,616	1,790	
法人税等調整額	17	△ 197	
中間純利益	2,011	2,341	16.4
前期繰越利益	383	370	
中間未処分利益	2,395	2,712	

株式の状況
（平成13年9月30日）

会社が発行する株式の総数 ――――― 77,946,000株
発行済株式の総数 ――――――――― 19,493,500株
株主数 ――――――――――――――――― 14,405名

■ 株主構成比率



役員
（平成13年9月30日）

代表取締役社長	池森　賢二	常勤監査役	望月　恒治
代表取締役専務	山本　　尚	常勤監査役	管林　義隆
代表取締役専務	田多井　毅	監査役	小関　勝紀
取締役副会長	池森　政治	執行役員	石渡　健一
常務取締役	國分　孝夫	執行役員	石田　隆男
取締役	成松　義文	執行役員	与田　尚久
取締役	松本　克彦	執行役員	宮原　修司
取締役	宮島　和美		
取締役	藤田　紘一		
取締役	岡田　隆吉		

FANCL中間事業報告書2001.taj 01.12.18 11:21 AM ページ 15

FANCL
株式会社ファンケル
〒247-8577 横浜市栄区飯島町109-1　TEL.045(894)1111(大代表)

当社に関する情報についてはホームページでもご覧いただけます。
http://www.fancl.co.jp

株主メモ

決算期日	3月31日
定時株主総会	6月下旬
基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 東洋信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都江東区東砂七丁目10番11号 東洋信託銀行株式会社 証券代行部　TEL.03-5683-5111
同取次所	東洋信託銀行株式会社　全国各支店
公告の方法	日本経済新聞に掲載

※名義書換代理人東洋信託銀行株式会社は、平成14年1月15日をもって、商号をUFJ信託銀行株式会社(登記上は、ユーエフジェイ信託銀行株式会社)に変更いたします。

環境に配慮して再生紙を使用しています。

株式会社ファンケル

第22期　中間事業報告書

平成13年4月1日～平成13年9月30日(連結ベース)